令和２年度第３回地域活動サポートセンター運営委員会
会議録

１．日　時　　令和２年 12 月 18 日（金）　　13 時 30 分～14 時 30 分

２．場　所　　サンコスモ古賀 203・204 会議室

３．出席者

（委　員）三木貞会長、森本幸代委員、大須賀理恵子委員、青柳清隆委員、
山田小織委員、真鍋憲司委員、結城俊子委員、玖島昭二郎委員
※欠席…柳武繁行副会長、坂本直大委員

（事務局）介護支援課　課長：星野美香
介護予防係　係長：岩熊和洋、仲野摩利子、梅谷佐和子、大嶋真貴、谷口治、
大山由紀子
社会福祉協議会　船越郷子

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第 16 条第２項の規定により委員定数 10 名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

４．傍聴者　　なし

５．議　事

（１）地域支え合いネットワークの説明及び小学校区ごとのワークショップについて
（２）インターネットを使った地域活動の成果と課題
（３）その他

６．資　料

【資料１】住み慣れた地域でともに支えあい最期まで安心して暮らせるまちをめざして
【資料２】インターネットを使った地域活動の成果と課題
【資料３】第 11 回ボールンピック大会日程
【資料４】第 11 回ボールンピック大会　アンケート集計
【資料５】インターネットを使った地域活動等の様子
【資料６】古賀市介護予防リモート講演会チラシ

７．会議内容

（１）市あいさつ（介護支援課長）

省略

（２）会長あいさつ

省略

（議題の変更についての説明）

第１回地域活動サポートセンター運営委員会において、第３回運営委員会の議題として「令和３年度から令和５年度に係る意見交換」を予定していたが、現在、当該期間の事業について検討中であるため、次回（第４回）運営委員会の議題とすることを説明し、委員から異論等の意見はなかったため、第３回運営委員会の議題は、「地域支え合いネットワークの説明及び小学校区ごとのワークショップについて」及び「インターネットを使った地域活動の成果と課題」として、議事を行うこととした。

【議　事】

（３）地域支え合いネットワークの説明及び小学校区ごとのワークショップについて　資料１

（事務局より資料をもとに、成果と課題について説明）

【質　疑】

（委　員）　地域支え合いネットワークについての説明を小学校区ごとに行うということだが、地域には様々な団体があり、まず、小学校区で様々な団体・組織をまとめ、縦横の連携が取れるようにする必要があるのではないか。

（事務局）　地域では、高齢者問題は福祉会、行政区の問題は自治会といったように、問題や課題ごとに「担当」があるかのような状況が見られる。一つ一つが地域の課題であるが、地域の様々な人が顔を合わせて考える機会がない現状もある。自治会や福祉会など様々な団体が一体となって地域の課題を話し合う機会を、１年に１回は設けたいと考えている。

（委　員）　小学校区で取組むなら小学校区で話し合いができる「場」が必要であり、先に協議体をつくらないと、いくら説明をすると言っても、集まる「場」がないと、人は集まらないかもしれない。

（事務局）　古賀市で生活支援体制整備事業を始めて５年になるが、委員の意見のとおり、以前、協議体を先に作っていこうとしたが、高齢化に関する問題意識が地域によって、団体等によって相当違っており、温度差があることが分かった。「話し合いはできている」と言う人や地域もあった。

そこで、地域の情報や課題を共有しながら、繋がりを作っていくことから始めるようにした。小学校区ごとの全体会で情報や課題を共有し、参加する個人や団体のリーダーを繋いでいくことから、進めている。「地域の課題を話し合うので、協議

体に集まってください」と持っていくと、地域の受け止めが様々ある。

（委　員）　第２層の生活支援コーディネーターが、「協議体の全体会に参加しなさいよ」と言わないといけないのではないか。「皆さん思い思いに来てください」と、呼びかけるのか。はっきり、「来てください」と言わないと、参加しないのではないか。そのための生活支援コーディネーターではないか。

（事務局）　参加して欲しい人全員に案内するようにしている。昨年は幅広い人に来てもらうように呼び掛けたが、今回は、コロナ対策を取り、会場の定員もあるため呼びかけを限定して行う。

（委　員）　説明会の周知チラシに参加予定者が記載してあるが、記載してある人たちで十分だと思う。この人たちが必ず来るように呼びかけをして欲しい。

（事務局）　本当は強制力を持って組織を作って行かなければいけないのだろうが、今回は、ぜひ、参加してくださいと呼びかけ、来て欲しい人においでいただくようにする。

（委　員）　運営委員が参加する場合、自分の住んでいる小学校区で参加するのか。

（事務局）　運営委員の皆さんは、住んでいる地域に限らず参加できるところで参加してもらいたい。

（事務局）　地域の課題は小学校区ごとに違う。まず、小学校区で課題を共有し、話合いを行いながら、つながりを強めていきたいと考えている。７月に校区コミュニティの連絡会で事業への協力を初めてお願いし、来月の区長会でも初めて事業説明を行う。ここまでに何年もかかった。事業の推進に向けて、一層ステップアップしていきたい。

（委　員）　小学校区単位よりも小さい単位でないと、まとまらないのではないか。区によっては、区長は１年か２年で交代し、民生委員は１期（３年）で交代する。校区コミュニティを止めたところもある。市から校区コミュニティを組織するように言われ、無理やり作ったところに原因があるように思う。

（事務局）　これまで、小学校区の地域支え合いネットワークは、社会福祉協議会のネットワークを活用し、福祉会、民生委員、シニアクラブを中心で行ってきた。地域団体が繋がりボトムアップしながら、支え合いのネットワークを構成している。これからは、自治会ごとに役員を何人も立てるのは困難になっており、支援できる人が広域で融通が利く等、自治会より大きいスケールで取組むメリットがある。

（委　員）　ケースによって、違うと思う。

（事務局）　まず、小学校区ごとの課題を団体等で共通理解し、同じ基盤を作るところからスタートしたい。

（委　員）　個々の団体の自立状況が違っており、地域課題を共有しても対応力に差がある。一度に進めようとすると無理が生じる。

（事務局）　小学校区で共通理解を進めるのは、取組のスタートであり、地域の実情を踏まえ、取組や支援の担い手はケースごとに違うと考えている。委員は地域の実情に通じて

いるので、難しさも多く経験されている。貴重な意見として受け止める。事業は、古賀市の実状を反映しながら小学校区で推進していく。今回のワークショップも地域ごとの実状を反映させて行うので、ぜひ、参加して感想を聞かせて欲しい。

（４）インターネットを使った地域活動の成果と課題　資料２・３・４・５・６

（事務局より資料をもとに、成果と課題について説明）

【質　疑】

（委　員）　ボールンピック大会について、ボランティア参加者は例年に比べてどうだったか。

（事務局）　例年は予選と決勝戦と２日で行うところ、今回は４日間、一日に４回行われており、条件が異なる。今回は一人で、１日４ゲーム（回）参加すると実人数１人、のべ回数４回とカウントしているため、ボランティア参加者の実人数は減った。のべ人数は６９人あった。

（委　員）　ボランティアの方は楽しんで来られているのか、それとも集めるのは大変なのか。

（事務局）　会場の定員を考え、今回は協力者にあまり声をかけなかったが、協力的な方が多く自ら進んで参加していただいた。協力いただいた人数で、十分に行うことができた。

（委　員）　説明を聞いていると、今回は、例年よりもボランティアとして関わる時間が増えたことを、楽しんでいただいたように推察される。ボランティアにとっても、とてもよかったと思う。

（事務局）　大会の運営を市シニアクラブ連合会に委託している。従来、大会運営の支援には、介護予防運動サポーターとシニアクラブ有志に参加してもらっていたが、会場が各地域に増えたため、ボランティアとして最寄りの会場で支援に参加する運動サポーターやシニアクラブ有志の裾野が広がった。

（委　員）　資料の成果と課題の中にリモート体験ができないグループが、１グループあったとあるが、なぜか。

（事務局）　サンコスモ周辺のインターネットの環境が非常に不安定で、インターネットが繋がらなかったため、他会場とリモートでつなげずに進行せざるをえなかった。それぞれの会場でゲームはきちんと行っている。月曜日の午前中は、リモートの送受信環境が良くないことが分かった。

（委　員）　リモートによる世代間交流は従来の（対面型）交流と比較して参加者の感想はどうだったか。

（事務局）　こども園の子どもたちは、太極拳を介しての世代交流は今回が初めてだった。ゆいで参加した高齢者からは、元気をもらった、楽しかったという声をいただいている。

本当は会って話をしたり、握手をしたりと直接交流する方が良い。しかし、新型

コロナウイルス感染症のリスクがあるなか、直接会うことはできなくてもリモートを活用して交流を行ことができる。

今回のような、初めての試みを行うことで、日頃ボランティアをしていた人たちが、保育園や施設で活躍することができる。いつまでこの状況が続くか分からない中、新しい交流の方法を考え、広げることが成果として大きかったと思う。

今年はボールンピック大会や世代間交流をできないと諦めていた高齢者が多かった。リモートという手段を使って交流できると分かったときは、諦めていた分大変喜ばれた。また、私たち職員は４０歳、５０歳で初めてリモートを体験しているが、今回世代間交流を行った子どもたちはまだ５～６歳である。介護支援課以外の職員からも、この子どもたちの可能性をこれから伸ばしていかなければならない、という声があった。

（５）その他（小学校区ごとの地域支え合いネットワーク全体会について）

（委　員）　小野校区で推進委員会を開催するときは、区長や民生委員・児童委員、一人暮らしの方がいらっしゃる組の隣組長、消防の分団長なども参加している。来年、第２層（小学校区）地域支え合いネットワーク全体会が行われるという案内があったが、地域のさまざまな団体に共通の認識を持っていただくことが大切だと思う。一人暮らしの方を支えるのは、福祉会や民生委員だけではできない。地域全体で見守ろうという意識が大切だと思うので、ぜひ、こうした取り組みを地域で伝えていただきたいと思う。

・次回開催は令和３年３月を予定

（６）閉会あいさつ（介護予防係長）

省略